

令和 5 年度 星が丘中学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す生徒像含む）

- ① 健康で気力のある生徒を育成する。
- ② 学力豊かで創造力のある生徒を育成する。
- ③ 勤労を尊び責任感のある生徒を育成する。
- ④ 国際感覚に秀で思いやりのある生徒を育成する。

【目指す生徒像】

- | | |
|-----------------|------------------|
| ① 気力あふれるたくましい生徒 | ② 自ら学び考える生徒 |
| ③ 進んで仕事をする生徒 | ④ 豊かな心と思いやりのある生徒 |

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

友・先生との出会い，打ち込むものとの出会い，感動との出会いなどを大切にし，生徒の「自己肯定感」を高め，生徒にとって，かけがえのない中学校生活を謳歌できるよう指導・支援をする。「生徒がいきる」そして，「学校が楽しい」と生徒が真に思える学校づくりを目指す。

また，グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により急速に変化するこれからの社会の中で，「生徒が生きる」教育活動を推進するため，学校・保護者・地域の連携を強化し，「教師がいきる」，「保護者がいきる」，「地域がいきる」学校づくりを目指す。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

（今年度のスローガン「自主・創造，そして やり抜く心」

教育目標や今年度のスローガンの具現化を図るため，昨年度の振り返りや学校評価・外部評価等を生かし，課題解決を図りながら，より良い学校経営に全校体制で取り組む。

（1）確かな学力の定着

- ・学習指導要領に基づく「本時のねらい」を明確に示した授業の展開，ねらいに即した振り返りの実践，自らの考えを進んで表出する活動の推進，個別最適な学び，そして，宇都宮モデル（はっきり，じっくり，すっきり）の各過程の指導の資質向上を図ることにより，確かな学力の定着を図る。

（2）心の教育の推進（豊かな人間性の育成）

- ・心に響く道徳の授業（考えさせ議論する指導を充実），読書活動，あいさつ運動，人権教育，国際理解教育，福祉教育等の充実を図り，教育活動全体を通して，やさしさと思いやりにあふれた心の教育を推進する。
- ・学校行事，部活動，体験活動における主体的な活動を通して，粘り強さや社会性を育む。
- ・生徒会活動，学級活動，班活動等における主体的な活動を通して，自治の意識を高める。

（3）生徒指導の充実

- ・生徒とのコミュニケーションを重視し，信頼関係の構築に努める。
- ・差別，偏見，いじめ等を許さない安全・安心な学校づくりに努める。
- ・生徒の自主・自律の精神を培うために，「育てる生徒指導」（自己教育力・自己肯定感の育成，デジタル・シティズンシップ教育）の推進を図る。
- ・問題行動の未然防止，早期発見，解決に向けて，家庭や他機関との連携を図りながら，組織的な取組を推進する。

（4）健康・体力の向上

- ・食育の充実と心身ともに健康的な生活を送るための指導の充実を図る。
- ・新体力テストの結果を活用し，課題を明確にとらえてその解決を図るとともに，進んで運動に取り組む態度の育成を図る。
- ・コロナ禍で減少傾向にあった運動機会を以前の水準に戻す取組を推進する。

（5）特別支援教育と教育相談の充実

- ・生徒一人一人のニーズに対応した教育支援の充実が図れるよう，校内支援委員会・教育相談部会等の機能を生かして組織的に取り組む。
- ・不登校の防止や解消，生徒一人一人の悩みの解消と明るい学校生活を実現するために，教育相談の意図的・計画的な実施と教職員のスキルの向上を図る。

（6）キャリア教育の充実

- ・キャリアパスポートの活用を通して，将来の生き方を考え適切な進路を選択する能力を育てる。

- ・社会体験学習等を充実させ、望ましい勤労観・職業観を育むとともに、生徒が自己の適性を探求し、職業を通して社会に貢献しようとする意欲を培う。

(7) 家庭・地域社会との連携と開かれた学校づくりの推進

- ・家庭や地域社会との連携と、地域の教育力を生かした地域と共にある学校づくりに努める。

(8) 教職員の使命感と資質の向上、働き方の意識向上

- ・時代や生徒、保護者のニーズに応えるため、教職員としての使命を深く自覚し、協働体制のもとに各自の特性の発揮と資質の向上に努める。
- ・働き方改革を推進して業務の適正化に努め、健康と安全管理に配慮する。

[星が丘地域学校園教育ビジョン]

未来を見つめ、主体的に生き抜く力の育成
～認め合い、学び合い、高め合う児童生徒を育てる取組を通して～

4 教育課程編成の方針

令和4年度からの3か年に渡る校舎の長寿命化改修工事においても変わらぬ教育機会の確保とコロナ禍で縮小を余儀なくされた学習機会や特別活動の回復に努めるとともに、持続可能な社会の創り手の育成を目指し、SDGsに係る学びを特別活動や総合的な学習の時間を中心に教科横断的に行い、さらに地域と連携し地域の教育力を活用できるよう教育課程を工夫する

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

(1) 学校運営

- ・生徒のやり抜く心と自己肯定感を高める、創造的な学校経営の推進

【重点項目】

- ①夢や目標に向かって、粘り強く取り組む態度の育成（やり抜く心）
- ②学習意欲と学力の向上（意欲を高める工夫、個別最適な学びの推進）
- ③安全・安心な学校づくり（心身の健康と危険予測・回避能力の育成）
- ④不登校対策（互いに尊重し合う関係構築と温かく居がいのある学級経営）
- ⑤教職員研修の充実（授業力・学級経営力の向上）
- ⑥地域との連携強化（地域の教育力の積極的な活用）

(2) 学習指導

- ・多面的に考え、自らの考えを進んで表出する生徒の育成

- 本時のねらいを共有し、意欲をもって学ぶ生徒の育成

(3) 生徒指導

- ・心豊かで思いやりがあり、粘り強くやり抜く生徒の育成

- 価値のある称賛と励ましを通して、自己肯定感や誇りを持てる生徒の育成

(4) 健康（体力・保健・食育・安全）

- 自己の健康、体力の状況を理解し、進んで健康、体力の向上に励む生徒の育成

- 食への関心を持ち、健康的な食事の在り方を自ら考え、実践できる生徒の育成

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校共通, 地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には, A拡充 B継続 C縮小・廃止, を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は, 文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1-(1) 確かな学力を育む教育の推進	A1 生徒は, 他者と協力したり, 必要な情報を集めたりして考えるなど, 主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 肯定的回答80%	・生徒が主体的に学習に取り組み, 深い学びにつながるよう, 学習のめあての提示, 振り返りの実施 ・教材・教具の工夫, 生徒用タブレットの有効活用 ・ICT支援員による授業実践	B	【達成状況】 教職員 95.0%, 保護者 88.1%, 生徒 87.2%とすべて 80%以上を達成している。 【次年度の方針】 学習のめあての提示や教材・教具の工夫, タブレットを用いての協働的な学習など, 生徒が主体的に学習に取り組む授業を工夫し, 深い学びにつなげる。
1-(2) 豊かな心を育む教育の推進	A2 生徒は, 思いやりの心をもっている。 【数値指標】 肯定的回答80%	・他との関わりを多面的・多角的に考える授業の実践 ・「思いやり」を題材にした道徳授業の実践 ・日常生活での思いやりの行動の推奨	B	【達成状況】 教職員 85.0%, 保護者 90.9%, 生徒 92.5%とすべて 80%以上を達成している。 【次年度の方針】 道徳科の授業での考え議論する場面において, 思いやりについて深く考えさせることを継続して指導していく。また, 日頃の学校生活においても, 思いやりのある言動がとれるよう指導支援に努める。
	A3 生徒は, 目標に向かってあきらめずに, 粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 肯定的回答80%	・学年に応じたキャリア教育の推進 ・学級活動や学校行事, 部活動等における指導(細かな目標を設定し, 取り組むことにより, 生徒の達成感や自己有用感につなげる。)	A	【達成状況】 教職員の肯定的回答割合が 75.0%と数値指標より低かったものの, 昨年度よりも 6.0 ポイント上昇した。生徒の肯定的回答割合は 80.9%と数値指標を上回っており, 良好な結果であった。達成感や自己有用感につなげる指導の効果が表れていると考える。 【次年度の方針】 学校行事, 部活動等を通して粘り強く目標に取り組めるように支援する。達成可能な細かな目標設定をするなど, 達成感や自己有用感につなげる工夫を継続的に行う。
1-(3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A4 生徒は, 健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 肯定的回答80%	・家庭科や保健体育科での発達段階に応じた指導 ・外部講師を活用した健康教育の実践 ・各種たよりを通した生徒・保護者への啓発 ・交通安全教室、避難訓練、登下校指導の実施	B	【達成状況】 教職員 90.0%, 保護者 87.1%, 児童生徒 86.7%, 地域住民 100.0%とおおむね達成できている。 【次年度の方針】 家庭科や保健体育科の教科指導、給食指導、生徒会活動等による健康教育を通して、実生活で健康や安全に関する適切な行動をとれるようにする。 交通安全教室や避難訓練、学級指導など日々の安全教育を通して、安全意識の高揚に努める。
1-(4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A5 生徒は, 自分のよさや成長を実感し, 協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 肯定的回答80%	・生徒一人ひとりにとって, 居がいのある学級経営の実践 ・学校行事や学級活動における役割分担など, 一人一人の自己有用感につなげる活動の実践 ・生徒の成長を, どんな小さなことでも褒める。	A	【達成状況】 生徒 88.2%, 教職員 92.5%。概ね達成できている。 【次年度の方針】 生徒同士で認め合えるような関係づくりを学級・学年で行う。

2- (1) グローバル 社会に主体 的に向き合 い、郷土愛 を醸成する 教育の推進	A6 生徒は、英語を使って コミュニケーションして いる。 【数値指標】 肯定的回答 80%	・コミュニケーション力を高める学 習活動を多く取り入れた英語の授業 の実践 ・ALTとの積極的な交流の推進	B	【達成状況】 教職員 90.0%, 生徒 73.5%であるが、 生徒は英語科の授業でのスピーキング やALTと自由に話すなど積極的に交 流している。 【次年度の方針】 生徒はある程度の英会話ができてい るが自信がない。英語科の授業におい て、ALTのさらなる活用とコミュニケ ーション能力をさらに高める学習活動 を継続し、英会話に対する自信を高めら れるよう指導していく。
	A7 児童生徒は、宇都宮の 良さを知っている。 【数値指標】 肯定的回答 80%	・「宇都宮学」の学習を中心とし、総合 的な学習の時間の指導の充実 ・地域との連携と、その教育力の活用	B	【達成状況】 教職員 80.0%, 保護者 75.3%, 生徒 78.2%であった。80%以上には届かない が、すべて昨年度より上昇している。 【次年度の方針】 「宇都宮学」を中心とした、総合的な 学習の時間の指導をととして、生徒がさ らに郷土への愛情と誇りをもてるよう 継続して指導していく。
2- (2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進	A8 生徒は、デジタル機器 や図書等を学習に活用し ている。 【数値指標】 肯定的回答 80%	・タブレット端末の積極的な活用（授 業・学校行事等） ・タブレット端末の効果的な活用例 の共有 ・授業での図書室の活用 ・図書選定委員会を開催しての計画 的な図書の整備 ・必要な資料等の市立図書館や地域 学校園内の学校からの借用	B	【達成状況】 教職員 100.0%, 保護者 77.8%, 生徒 70.5%であった。デジタル機器の活用は 進んでいる。 【次年度の方針】 タブレットの使用は日常的になって いる。現在の仮校舎の図書室からの移転 が完了すれば、図書室を授業で利用す ることも可能になるので、授業での活用を 意図的に推進していく。
2- (3) 持続可能な 社会の実現 に向けた担 い手を育む 教育の推進	A9 生徒は、「持続可能な社 会」について、関心をも っている。 【数値指標】 肯定的回答 80%	・総合的な学習の時間における「持続可 能な社会」についての学びの継続 ・「持続可能な社会」につながる活動 を意識させての委員会活動の実践 ・学習発表会における生徒会専門委 員会による実践発表	A	【達成状況】 教職員 85.0%, 生徒 74.7%と両者とも 昨年度より上昇している。 【次年度の方針】 総合的な学習の時間における学年の 年間指導計画に組み入れられ指導して いるが、生徒会の委員会の活動におい ても「持続可能な社会」につながる活動を 意識させて実践する。
3- (1) インクルー シブ教育シ ステムの充 実に向けた 特別支援教 育の推進	A10 教職員は、特別な支援 を必要とする生徒の実態 に応じて、適切な支援を している。 【数値指標】 肯定的回答 80%	・特別な支援が必要な生徒の個別の 支援計画の作成と活用 ・特別支援コーディネーターを中心 とした支援体制の確立（かがやきルー ム、ステップアップルーム等の特別支 援資源の有効活用） ・教育相談部会、校内支援委員会等 における情報の共有化と迅速な対応 ・本人・保護者の要望への対応や学校 生活に必要な支援の充実	B	【達成状況】 教職員 95.0%。概ね達成できている。 【次年度の方針】 かがやきルームのニーズが増えてき ている。授業者とかがやき担当職員との 連携が取れているので、継続したい。 配慮を要する生徒についての研修（5 月）は、共有する情報をより詳しいもの にする。 個別の支援計画の作成は大変だが、有 効活用できるようにする。
3- (2) いじめ・不 登校対策の 充実	A11 教職員は、いじめが許 されない行為であることを 指導している。 【数値指標】 肯定的回答 80%	・生徒指導部会を中心とした情報交 換と迅速な対応 ・いじめを扱った題材や人権に配慮 した道徳の授業の充実 ・「学校生活アンケート」（年間4回） による現状把握といじめ早期発見、早 期対応	B	【達成状況】 生徒 93.8%, 教職員 100.0%, 保護者 80.1%。保護者がボーダーだが、市平均 より2.9ポイント高い。 【次年度の方針】 道徳の授業や様々な活動を通して、思い やりの心をもつことの大切さを学ばせ たい。 アンケートの結果を受けてからの対 応ができたので、次年度も継続したい。

	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 肯定的回答 80%	・生徒一人ひとりにとって、居がいのある学級経営の実践 ・スタンダードダイアリーや教育相談週間を活用し、生徒の悩みごとなどの把握 ・教育相談部会における情報の共有化、支援 ・新たな不登校を生まないための未然防止と「ステップアップルーム」での登校支援の充実	B	【達成状況】 生徒 93.5%, 教職員 95.0%, 保護者 87.0%と概ね達成できている。 【次年度の方針】 ステップアップルームの本来の目的や手続きの流れを見直し、教職員の共通認識の下で慎重に運用を進める。
3-(3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 肯定的回答 80%	・生徒一人一人にとって、居がいのある学級経営の実践 ・宮っ子ダイアリーや教育相談週間の活用による、生徒の悩みごとなどの把握 ・外国人生徒の日本語の力に応じた日本語指導の実践 ・必要に応じた関係諸機関との連携	A	【達成状況】 肯定的回答割合が平均 94.6%と良好である。生徒の肯定的回答割合は 92.3%で、保護者の 86.1%を上回っている。 【次年度の方針】 学級活動等において、生徒一人一人が活躍できる場を設定するとともに、生徒の自発的・自治的活動を促す。教育相談機能の充実を図り、生徒の悩み等の早期発見・早期解決に努める。
3-(4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化				
4-(1) 教職員の資質・能力の向上	A14 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 肯定的回答 80%	・ねらいを明確に、振り返りを確実に行う授業の実践 ・ICTの効果的な活用 ・習熟度別学習やチームティーチング指導の充実 ・授業の中で、生徒が自己肯定感を高められる言葉かけの充実	A	【達成状況】 教職員 100.0%, 保護者 82.4%, 生徒 90.3%とすべて 80%以上を達成している。 【次年度の方針】 ねらいを明確にした授業を実践し、分かる授業に努め、生徒に達成感を味わわせることで、自己肯定感を高めていく。ICTの効果的な活用を図り、数学科や英語科では、習熟度に応じたきめ細やかな指導を充実させる。
4-(2) チーム力の向上	A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 肯定的回答 80%	・「チーム星が丘」の力を最大限に生かすための、多様なスタッフとの連携の強化 ・全教職員の共通理解に基づく組織的な対応	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答割合は昨年度より 4.6 ポイント上昇し、97.5%と良好である。教職員が同一方向を向き、連携・協力を図りながら取り組んでいると考える。 【次年度の方針】 管理職のマネジメントのもと、教職員の連携・協力を強め、情報の共有化を徹底するなど効率よく業務を遂行する。
4-(3) 学校における働き方改革の推進	A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】	・教職員の意識改革の推進 ・月 1 回のリフレッシュデーの設定 ・業務の精選・見直し ・部活動基本方針に基づく効率的な活動と休業日の設定 ・勤務時間管理による長時間勤務の改善とワークライフバランスの見直しの推進	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答割合は 65.0%で、市の平均 76.6%と比べ 11.6 ポイント低い。 【次年度の方針】 教職員一人一人が勤務時間の管理に努めるとともに、教育課程編成の工夫や部活動指導環境の改善など組織として業務の効率化に注力する。
5-(1) 全市的な学校運営・教育活動の充実	A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 肯定的回答 80%	・地域学校園の全体研修や各部会・分科会の充実 ・小中一貫カリキュラムに関する取組の充実 ・5教科と保健体育科での乗り入れ授業の実施 ・小中合同あいさつ運動	B	【達成状況】 肯定的回答割合は教職員 90.0%, 保護者 85.9%, 地域住民 100%, 生徒 79.4%で、高い水準にあるものの、生徒の肯定的回答割合が最も低い。しかし、生徒の肯定的回答割合は、昨年度より 10.8 ポイント上回っている状況でもある。 【次年度の方針】 「小中合同あいさつ運動」、「乗り入れ授業」などの取組を全校生徒へ知らせる工夫を行う。

5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 肯定的回答 80%	・地域協議会との連携の強化 ・可能な学校ボランティア活動の実践 ・地域の学習資源を活用した活動の充実 ・地域人材を活用した講演会等の実施 ・地域・企業と連携した「地域の方々・先輩・専門的な知識を持つ方に学ぶ」授業の実施 ・各種便りや学校HPによる積極的な情報発信 ・「宮っ子ダイアリー」を活用しての家庭との連絡	B 【達成状況】 肯定的回答割合が平均 89.0%と昨年度同様良好である。授業参観や体育祭、学習発表会等をコロナ禍以前と同じように行えたことなどが結果に反映されていると考える。 【次年度の方針】 保護者会、三者懇談、学校行事等に加え、各種便りや学校HPを利用して積極的に情報を発信し、家庭・地域との連携を密にしていける。
6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 肯定的回答 80%	・日常的な点検と月1回の安全点検の実施 ・自然災害時等の臨時の安全点検の実施 ・各種業者による施設点検 ・修繕箇所への迅速な対応 ・さくら連絡網、学校だより、HP等を活用し、改修工事の進捗状況を知らせていく	B 【達成状況】 教職員 87.5%、保護者 89.4%、地域住民 92.9%とおおむね達成できている。 【次年度の方針】 各種たよりやHP等で、改修工事の進捗状況に加え、業者による施設点検や修繕の実施状況も周知して、学校の取組への理解を広める。
6- (2) 学校のデジタル化推進	A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができている。 【数値指標】 肯定的回答 80%	・ICT支援員による生徒用タブレットの診断 ・Wi-Fi	B 【達成状況】 教職員 92.5%で数値指標を達成している。現在、仮設校舎であることからネットワークの回線トラブルもある。 【次年度の方針】 ICT支援員のさらなる活用を図り、教職員の支援だけでなく、授業中の生徒への支援もいただき、さらに授業をさらに充実させる。
小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B1 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 肯定的回答 80%	・生徒会を中心としたあいさつ運動の充実 ・登校指導時の教職員によるあいさつ運動の実施 ・先行あいさつの励行（教職員も率先して）	B 【達成状況】 生徒 96.0%、教職員 87.5%、保護者 90.7%、地域 100%。概ね達成できている。 【次年度の方針】 率先垂範してあいさつをするとともに、引き続きあいさつ運動を生徒会主体で考えていく。
	B2 生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 肯定的回答 80%	・全職員の共通理解のもとでの継続指導 ・生徒自らが考えるマナーアップの方策を手助けする体制の整備 ・5分前行動・2分前着席の徹底	B 【達成状況】 生徒 94.3%、教職員 97.5%、保護者 93.4%、地域 100%。 【次年度の方針】 制服の着方、名札の着用などを徹底させる。5分前行動・2分前着席は概ねできているが学年によって差が見られるので、全学年で合わせた指導を行う。
	B3 生徒は、授業や部活動などで一人一人が課題をもって体力の向上に取り組んでいる。	・保健体育の授業や部活動における投力の育成を意識した授業の実践 ・ICT活用による授業実践	B 【達成状況】 教職員 90.0%、保護者 87.3%、児童生徒 89.4%、地域住民 100.0%とおおむね達成できている。 【次年度の方針】 保健体育科の授業や部活動指導等でICTを活用し、視覚的に動きを把握させることで、自己の課題を明確にして問題解決を行う力を育成する。

B 4 生徒は、学習の目的やねらいがわかり、自ら進んで考えを発表している。	・毎時間のねらいの提示 ・生徒に目標や見通しを持たせた授業の展開 ・生徒の発言を大切に扱うとともに、まちがいを恐れずに発言できる学級の雰囲気作り ・タブレット端末を活用した意見交換等による自分の考えを表出する活動の実施	B	【達成状況】 教職員 95.0%, 保護者 71.3%, 生徒 67.7%と、教職員は昨年度より 9.3%上昇している。 【次年度の方針】 毎時間のねらいの提示や、生徒自身が見通しを持って授業に取り組めるような授業の展開をする。また、日頃から生徒の発言を大切に扱うとともに、まちがいを恐れずに発言できるような学級の雰囲気作りに努める。タブレットでの意見の交換には慣れてきたので、さらなる活用を図る。
B 5 教職員は、あいさつや対応が丁寧である。 【数値指標】 肯定的回答 80%	・教職員自らの先行あいさつの実施 ・相手の立場や気持ちになったの丁寧な対応（人権を意識した行動・発言） ・教職員同士の連携を深める ・	B	【達成状況】 生徒、保護者、教職員それぞれの肯定的回答割合が昨年度よりも上回り、平均 94.3%と良好である。 【次年度の方針】 教職員一人に対応するのではなく、チームで対応し、迅速かつ丁寧な対応を心掛けていく。 教職員一人一人が保護者、来校者へ積極的にあいさつや声掛けをし、学校として温かく迎える雰囲気をつくる。
B 6 教職員は、一貫性・公平性のある生徒指導を基にして、生徒の規範意識を高めている。 【数値指標】 肯定的回答 80%	・生徒指導部会等での情報交換等による生徒の的確な把握と早期対応 ・部会記録を回覧するなど共通理解を図ることによる全校体制での公平かつ一貫した生徒指導の実践	B	【達成状況】 生徒 89.7%, 教職員 97.5%, 保護者 83.5%, 地域 100%。概ね達成できている。 【次年度の方針】 引き続き組織で対応することを心がける。
B 7 生徒は自分の良さに気づき、自己肯定感をもって学校生活を送っている。 【数値指標】 肯定的回答 80%	・生徒相互が学び合い認め合う場の設定と、生徒の自己肯定感を高める指導力の向上 ・生徒が自己肯定感を持てるような生徒への励行	A	【達成状況】 教職員 85.0%, 保護者 79.1%, 生徒 74.4%と、教職員は昨年度より 8.8%上昇しているが、生徒の肯定的回答が下がった。 【次年度の方針】 学校生活全般において、生徒が互いの良さを認め合えるような雰囲気づくりに努める。
B 8 生徒は、SDGsに係る取組を実践している。 【数値指標】 肯定的回答 80%	・総合的な学習の時間での学年ごとの取組の実践 ・生徒会各委員会での SDGs に係る取組を実践し、放送や集会などで発表を行う。	A	【達成状況】 教職員 92.5%, 保護者 75.3%, 生徒 67.7%と、教職員と保護者は上昇している。生徒が下がっているのは、SDGs の取組が日常的に浸透し、当たり前になってきたからと思われる。 【次年度の方針】 総合的な学習の時間を活用し、知る・学ぶ・活用する取組を継続して行う。また、生徒会各委員会で SDGs に関わる活動に取り組んだり、学習発表会における成果のまとめや発表を行ったり、生徒が自分にできることを考えられるように指導する。
B 9 生徒は、交通ルールを守り、登下校時の安全に努めている。 【数値指標】 肯定的回答 80%	・教職員による月 1 回の登校指導 ・毎週水曜日の一斉下校時や部活動終了時の下校指導 ・交通安全教室の実施 ・生活委員会による安全な下校の呼びかけ	B	【達成状況】 生徒 96.2%, 教職員 80.0%, 保護者 82.8%, 地域 100%。生徒の達成状況が、教職員から見て実態に見合っていないと思われる結果となった。 【次年度の方針】 繰り返し指導を継続する。地域の協力を仰ぐことも視野に対策を考える。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- (1) 今年度も多少の制限はあったが、多くの学校行事を開催することができた。生徒会活動も活発となり、学校への帰属意識が高まるなど成果が上がった。来年度は、生徒の学級への帰属意識を高めていきたいと考えている。
- (2) 小中一貫教育については、生徒の肯定的回答が他に比べて低く、活動ができるようになってきてはいるが、一部の生徒のみがかかわる活動が多いことや全校生徒へ周知する広報活動の不足が考えられる。
- (3) 地域学校園・地域の諸行事においては、今年度は多くの実施があり、生徒がボランティアとして活動する場が戻ってきた。過去に携わった内容の引継ぎを行っていくことが教職員間でも必要になってくる。
- (4) 「目標に向かってあきらめずに粘り強く取り組んでいる」が、生徒の肯定的回答率が昨年度を下回っており、コロナ禍により様々な体験が制限された影響が残っているのではないかと考えられる。
- (5) 今年度も、特色ある学校づくりとして、SDGsをテーマに掲げ取り組んできており、学習発表会等において成果があったものの、「持続可能な社会への関心」の生徒の肯定的回答は目標値を下回っていた。SDGsの取組が日常的に浸透し、当たり前になってきたからと思われる。
- (6) 今年度については、可能な限り保護者や、地域の方々に参観いただける場を設けた。それでも保護者、地域の方々の来校者数は感染宝への不安や校舎長寿命化工事中ということもあり思ったほど多くはなかった。学校行事を外部施設で開催し生徒の様子を見られたことには賛同の声が多かった。
- (7) 学校からの情報発信については、日々学校ホームページの更新に努め、多くの方々にアクセスいただいた。今後も引き続き保護者や地域の方々への情報発信を行い、開かれた学校づくりを推進する。
- (8) 地域の方からの評価については、大変肯定的な回答が多かった。今後も地域との連携を深め、地域の方々に信頼される学校づくりをさらに推進する。

7 学校関係者評価

- (1) A19「学校に関わる職員全員がチームになり、協力して業務に取り組んでいる」の肯定的回答が昨年度比+4.6ポイントであり、市の平均も上回っており、学校としての教職員が一致協力して取り組んでいることが分かる。また、A14「教職員は、分かる授業や児童生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。」についても肯定的回答が昨年度比+2.4ポイントと授業改革を推進していることが分かる。引き続きわかる授業を推進していった欲しい。
- (2) 地域住民の評価については、回答者数が少ないようである。現在は、本協議会の委員やボランティアで活動に参加された方々からの回答を得ているが、全部の項目に答えられるほど学校や生徒の様子を分かっているわけではないので、分からない項目については、答えようがないため肯定的回答で回答してしまうため、分からない項目については答えなくてもよくしてほしい
- (3) 不登校の生徒数が多く、ステップアップルーム（別室登校）やまちかどの学校などの取組がなされているが、登校できない理由も様々であるので、より個に応じた支援や魅力ある学校づくりを推進していく必要がある。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- (1) 感染症が心配な部分もあるが、基本的には、学校行事や生徒主体の活動を活性化させ、心身ともにたくましい生徒の育成に努める。また、地域との連携を強化し、関心を高め、進んで参加する態度の育成に努める。
- (2) 「自己肯定感の高揚」をキーワードに、引き続き、地域学校園内の小学校との連携を強化し、その実現を目指す。
- (3) 特色ある学校づくりとして、SDGsに係る取組を継続し、未来像を予測して計画を立てる力、多面的・総合的に考える力、コミュニケーション力、他者と協力する力、表現・発信する力、つながりを尊重する態度、進んで参加する態度などの育成に努める。
- (4) 学力の向上については、学習習慣の定着を図る取組を継続させるとともに、ICT機器を活用した協働的な学びの実践や、AIドリルの活用など、さらなる授業改善を図ることで確かな学力の定着に努める。
- (5) 健やかな体を育成するために、保健体育の授業での補強・補助運動も実施や教育課程内での運動及び部活動を通して、健康の維持と体力の向上についての指導を計画的・継続的に行う。
- (6) 「勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる」の項目の肯定的割合が市平均より-11.6ポイントと大きく下回っているため、業務の精選・見直しを行うとともに、教職員一人ひとりの勤務時間の管理を徹底し、働き方改革を推進するよう努める。